

『この地域で 穏やかに 寿命が全うできるように』

橋本医院 院長 ^{はしもと}橋本 ^{しんいち}進一 氏 (彦根市 上西川町)

FMひこねとのコラボ企画

みなさん、ご存知でしょうか。11月は、『滋賀の医療福祉を守り育てる月間』です。

滋賀県では、医療福祉について、県民が学び、理解を深め、主体的な取り組みを展開していくことの重要性から、地域において県民自ら、健康や地域の医療福祉について考えるきっかけづくりとなるように、11月を『滋賀の医療福祉を守り育てる月間』と定め、県民向けの広報・啓発活動を各地で集中的に実施しています。

そこで、今回は、FMひこね様とコラボして、下記の日程でラジオ放送もされますので、こちらでもぜひ先生の対談の様子をお楽しみください。

放送日 【FMひこねラジオ放送(78.2MHz)】

- ◆橋本医院 橋本進一氏 平成29年11月 2日(木)・3日(金)
- ◆つつみ歯科医院 堤正彦氏 平成29年11月 9日(木)・10日(金)
- ◆リ一薬局 池田富美子氏 平成29年11月 16日(木)・17日(金)
- ◆(調整中) 平成29年11月 23日(木)・24日(金)

<放送時間>10分程度

- ①6:40~(金曜日のみ 6:50~)
- ②7:50~
- ③9:40~
- ④11:50~
- ⑤16:40~
- ⑥19:50~

FMひこねとのコラボ企画 第1弾は、橋本医院 院長、橋本進一先生です！



田園風景が広がる稲枝北。祖父の代からこの地で診療所を開業されている橋本医院を訪問しました。

院長の橋本進一先生は、橋本医院の三代目になります。今回は、地域医療や在宅医療についての先生の思いをたくさん聞かせていただきました。【取材日：平成29年10月3日】

*インタビューは、彦根医療福祉推進センター所長(彦根市立病院在宅診療科主任部長)切手俊弘医師です。(本文中青文字「」内の文字部分)

橋本医院 三代目 稲枝の住民の皆さんと共に

「先生の経歴を教えてくださいたいのですが、先生はこの病院で今何年になりますか。」

「私が三代目として橋本医院をするようになったのは平成12年からなので、もう17年になります。祖父の代からこの場所で開業をしており、この地域には親子何世代も診てきている方がたくさんおられます。」

私は、地元の高校を出て岩手の大学にいきました。岩手に6年間、そのあとは神戸の社会保険神戸中央病院（研修指定病院）に4年間、次は京都府立医大の第二内科で1年、それから京都第二赤十字病院の救命センターに1年いて、その後、岩手の大学に戻って助手を4年間していました。4年目に入った頃に父が病気になって、地元に戻ることになり、33歳の時にこちらに戻ってきました。

実は僕は40歳くらいまでは大学や病院で仕事をしようと思っていたのですが、そのような事情でこちらに帰ってきて開業したということです。父も祖父もこの場所で開業していました。」

「先生の一日の仕事の流れ、過ごし方を教えてくださいませんか。」

「朝起きて、家で犬にえさをやったり、お世話をしたりしてから診療所に一番に向いて医療機器のセッティングなどをして一日が始まります。」

スタッフが集まると、まずはスタッフで共通の認識を持つということで、診療前ミーティングを行います。そのあと午前中にはスタッフと協力して40人～50人の外来患者さんの診療を行います。

外来診療が終わりましたら、時間のあるときは軽くお昼ご飯を食べて、その後、訪問診療に行ったり、市の健診業務や予防注射、学校医の仕事に行ったりしています。他にも産業医の仕事や、時に地域の中で講演などもすることもあります。

夕方は、5時から午後の診察をスタートして、7時～8時頃には1日の診療が終わります。書類の整理をして10時くらいにはここから10分ほどのところにある自宅に帰ります。」

先生の元気の秘訣 ～上手に時間を使って“仕事と趣味と大好きなワンちゃんとの時間”～

「長い一日を過ごされていますね。患者さんを診察する以外にもたくさんの活動をされていますが、忙しい業務の中で、気が休まる時間がなかなか無いように思いますが、何か工夫はされていますか」

「仕事中はそれなりにストレスを感じていると思いますが、私は、診療所を出るとすっかり気持ちを切り替えています。家に帰ると犬もたくさんいるので、彼らが僕を癒してくれます。大きな犬が一匹、小さい犬が4匹。犬を飼ってから『人が変わった』と妻が言うんです（笑）。人間が丸くなって優しくなったと（笑）。」



それと、趣味の音楽を聴いたり、音楽を聴きに出かけたり、時にはおいしいものを食べに行ったりして、隙間時間にめいっぱい楽しみを入れることによってストレスを発散させているといった感じですね。」



先生が思う漢方薬の魅力

「先生はいろいろな分野を勉強されていますが、先生のご専門は何ですか。漢方薬についても勉強されていましたよね。」

「私はもともと呼吸器内科でした。呼吸器内科だけでなく、医局には、循環器、血液内科もありましたので、これらの分野が得意分野になります。」

漢方薬については研修医になった1年目くらいから勉強しています。病院で勤務していた頃は漢方薬があまり揃えられていなかったのですが、開業してからは、さらに勉強を深めて、日々活用しています。漢方医療を取り入れた診療を行って患者さんの症状の改善を図っています。」



穏やかに 寿命を全うできるように支える医療を

「では、在宅医療について、橋本先生のお考えを教えてくださいませんか。」

「基本的には、この地域ですっと自分が診療してきた患者さんは、出来れば最期まで家で、看取れるものならば看取りたいと思います。特に高齢の方は、病院に行って死にたくないといわれる方が多いので、家で最期までみれるものならばみれるようにしたいと思います。在宅療養になる前の状態のときから（少し若い年齢の頃から）、緩やかに状態が変化し、苦痛のないような一生を遂げてもらえるような工夫をしながら、最期に在宅に結び付けていけるといいと思います。私は診療しているつもりです。横文字で言いますとソフトランディングという言葉がありますが、そういう感じで長寿を全うする、寿命を全うしてもらえればいいなと思っています。」

「まさに今私たちの世界では地域包括ケアシステムという言葉が言われています。住み慣れた地域で最期まで暮らして自分の人生の最期を迎えましょうということに取り組んでいらっしゃる橋本先生のお考えがうかがえます。」

地域でチームをつくる

「在宅医療というところを一生懸命すると先生自身が疲れてしまうんじゃないかなと思うのですが、先生はそれでも上手に休日を使って余暇を楽しんだり、あるいは時間を大事にして研究会や勉強に時間を割いてらっしゃいますが、そういうのにはコツがありますか。」



「僕が稲枝に帰ってきた17年前には、介護保険の制度がない頃でしたから、その頃と比べると今はものすごく恵まれていると思います。ケアマネジャーさんがいたり、訪問看護師さんがいたり、ショートステイで泊まれる施設があったり、いろいろとサポートしてくれる周りの方がたくさんおられるわけですよね。」

昔だったら僕が行って全部一人でやらなければならぬようなところを、サポートしてくれる、地域全体でのチームというのが出来つつあります。」

『彦根には在宅医療をやりやすい いい土壤がある』

～ それぞれの専門性を理解し、つながり ささえ合う ～

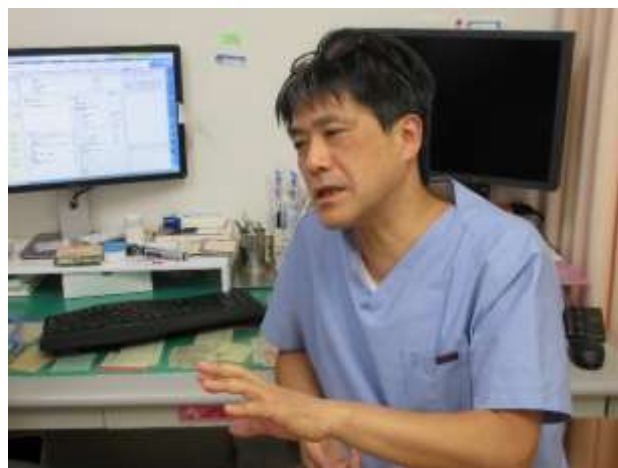
「それぞれの持つ力、役割を双方がうまく活用すると、痛みわけと言うか、つらさは少なくなって、意外と楽に、でも効率よく、その地域の在宅の患者さんを守っていけるようなそういう土壤があるってことがすごく救いですし、それがあることによって僕も楽をさせてもらいながら在宅患者を診ていけるのだと思います。

また、この地域の方はとても家族の方が手厚いので、家族の方に直接お話をして、相談しながら、どういう風にしていくとその人の苦痛が少ないか、その人の苦痛が少ないだけではなく家族にとっても大変じゃないかという話を話し合いながら、介護の資源を使って在宅でみていくことができます。

さらに、もう一ついいことに、ここ数年、切手先生が来てくれたおかげで、病院側からも在宅に介入してもらえることで、さらに僕らとしては楽になったのです。

だから彦根というのは、すごくいい土壤があって、より診療所の医師が在宅医療をやりやすい状態になっていることは間違いないです。」

「ありがとうございます。実際に在宅療養を支えるというのは患者さんのおうちに行くだけではなく、診療所でみていくときにも先生のようなお考えをされて在宅医療に向けて進めていける、そういう姿勢がとても大切なんだということが理解できました。」



住民の皆さんへのメッセージ

「最後にこれからの在宅療養について、稲枝の地域の方々、それから彦根全体の方に向けて湖東地域の地域医療を支えていくに当たって、先生から住民の皆さんにメッセージがあればお願いいたします。」

「彦根というところは、実は在宅医療という点では非常に恵まれている地域だと思います。みなさんはそれぞれにホームドクターを持っておられると思いますが、きちっとホームドクターを通して、在宅診療をしなければならぬ状況になっても、ちゃんと支えていけるよい土壤がありますので、出来るだけ家で、苦痛がなく過ごせる場合は、在宅でも過ごせるということを知っておいていただくといいのではないかなと思います。」



「かかりつけ医を持つことはとても大切です。」

「そうですね。やっぱり普段見ている先生が一番その患者さんのことを知っています。ですから、在宅医療や外来診療では十分ケアできない場合は、かかりつけ医と病院が連携し、病院にも介入してもらって支えていくというような形になると一番うまくいくのではないかと考えています。」

オフレコ

●認知症について思うこと

「これからは認知症の対応が重要になってくると思いますね。

“老年期のうつ”でもありながら、認知症のような症状のある方がすごく多いように思います。結構元気だったのに高齢になって、ある時期から眠れなくなる方、いろんなことを考えてしまって眠れなくなる人は、心のパワーが落ちて、認知症なのか老齡うつなのか、どっちともいえないような状態になっていたりします。

このような方は、心のエネルギーをアップさせると症状が良くなるので、漢方薬をうまく活用したりしていますね。」



アクティブに活動されているお二人の先生。話題も豊富で、医療や介護はもちろんですが、いろいろなお話に会話も弾み、とても楽しい時間を過ごさせていただきました。ぜひまた続編を…よろしくお願いします！

これからも、この地域の医療や福祉の充実、また安心して過ごせる地域づくりについて、住民の皆様はじめ様々な関係機関の皆様と共に取り組みを進めていきたいと思っています。橋本先生にもお力をいただき、湖東地域全体を盛り上げていきたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。(A)